



岩屋ダム利水貯水量 6,190万トン（貯水率100%）

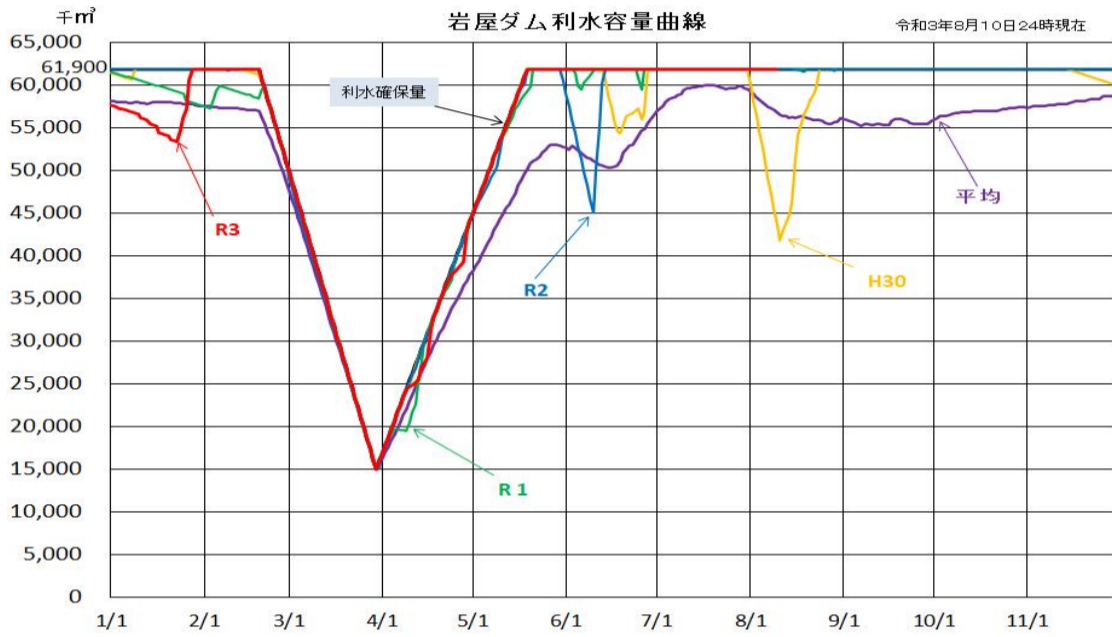
農業用水取水量 2,356万トン（取水率 56%）（ともに8月10日現在）

7月下旬から今月上旬にかけて35度を超える猛暑日が続く、多治見市では40.2度を記録するなど、地球温暖化が関係しているかわかりませんが、年々気温が上昇しているような気がします。

今月に入って台風9号と10号がそれぞれ発生し、台風9号は埼玉県に最接近し大雨をもたらしました。台風10号は九州地方から四国地方にかけて北上し、日本海を抜けて北海道に再上陸するなど、広い範囲で線状降水帯が発生し観測史上最大の降水量を記録しました。幸いにも今回の台風は岐阜県を離れるように通過しましたので、農作物等への大きな被害は無かったようです。

これから本格的に台風が多くなる時期に入りますので、予想進路や接近時間等の最新の情報を確認し、早め早めの対応に心掛けていただきたいと思います。

水源地である岩屋ダムの利水貯水量は、8月10日現在、6,190万トンと満水状態を保っています。東海地方の向こう1ヶ月の天候の見通しは、平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並みかやや高くなる見込みとのことです。出穂期(普通植え)は多くの水を使う時期でもありますので、引き続き降雨状況や貯水状況に注意を払っていく必要があります。



農業用水取水量は8月10日現在、2,356万トン（取水率56%）で、過去3ヶ年の平均取水量同等の数値となっています。一方、右岸用水における農水の年間総取水量は4,190万トンと定められています。

本年度の水稻用水使用期間もあとわずかになりました。受益者の皆様には、河川、ため池等の地区内水源を最優先に利用していただく等、右岸用水の有効活用にご協力をお願いします。

定期（決算）監査を実施

7月13日、木村総括監事、小栗、永田両監事による定期（決算）監査を、佐藤会計担当理事の立会のもと連合事務所に於て執行しました。業務や財産の状況、会計・経理に関する事項について、関係諸帳簿及び証拠書類と照合を行うなど必要な監査手続きをもって実施され、事業報告及び財産目録並びに令和2年度の一般会計及び特別会計の収支決算書等の書類は、正確かつ適正に管理・処理されていることを承認していただきました。



水資源機構中部支社に要望書を提出

～木曾川右岸用水施設機能保全について～

平成27年度より着工した木曾川右岸緊急改築事業については、令和2年度をもって事業が完了し、工事が完了した区間ではその事業効果は確実に現われています。一方、管理開始から40年を経過しようとしている今、各施設においては老朽化は急速に進行しており、特に揚水機場においては、改築が図られたものの、異常振動が確認されるなど不具合が発生しており、安全運転が危惧されています。また、PC管では継手からの漏水・出水が引き続き発生しています。

連合ではこうした現状を踏まえ、用水の安定供給と安全な施設管理を図る観点から、7月27日に伊藤理事長が水資源機構社中部支社を訪れ、坪井支社長に、次の事項について早急に取り組んでいただくよう要望書を提出しました。

【主な要望事項】

- 経年劣化による偶発的な事故への懸念が高まっている揚水機場の機能保全計画の見直し及び対策への取組。
- 未改築区間のPC管及びそれ以外の管種の機能保全計画の見直し及び対策への取組。
- 幹線導水路等のトンネル背面空洞調査が行われていない約7kmの調査及び対策への取組。



◇東海地方 向こう3か月の天候の見通し（令和3年7月21日 名古屋地方气象台発表）

8月・・・天気は平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並か高い見込みで、降水量はほぼ平年並かやや多い見込みです。

9月・・・天気は数日の周期で変わり、気温は平年並みか高い見込みで、降水量はほぼ平年並の見込みです。

10月・・・天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は平年並か高い見込みで、降水量はほぼ平年並の見込みです。